

北広島市議会と若い世代との対話集会は コロナ禍でのオンライン開催を経て新たな形に

佐々木百合香 北広島市議会議員

二〇一六年に一八歳選挙権が施行されたことを受け、次代を担う高校生世代が政治に関心を持つことや、自分の住むまちの課題を解決するためにまちづくりにかかわる機会として、現職市議会議員で構成する「北広島市議会」の主催で二〇一七年より高校生と議員との意見交換会を企画、開催してきました。北広島市議会としての公式活動ではありませんが、参加は任意で、全会派から半数を超える議員が参加しています。この取り組みを始めるにあたっての経緯については『北海道自治研究』二〇一九年一月号の「議会改革短信」で、市民ネットワーク北海道の鶴谷聡美市議が報告しています。

その後、改選を経て新たなメンバー構成となつてからも市内の三校から参加者を募り、高校生との意見交換を続けることができましたが、コロナ禍で二〇二〇年度は中止、二〇二一年度はオンラインでの開催となりました。オンライン開催にあたっては、議会改革の一環としてICTの活用をすすめるため全議員に貸与されているタブレット端末を活用。オンライン会議システムのホスト操作と進行をおこなうほか、接続や操作方法に不安のある議員も参加できるよう議員同士で教え合い

ながら予行演習をして備えました。高校生たちは自宅から、自身のスマートフォンやタブレット等で接続しました。

内容としては、議員側から、二元代表制をはじめとする議会のしくみや、ボールパーク構想の進捗について説明。その後はグループに分かれ、「コロナ禍での学校生活とこれから」「ボールパークに期待すること」というテーマでグループトークをおこないました。学校や学年が偏らないように分けた各グループに議員が二〜三人入り、進行役と記録を担当しました。私の担当したグループでは、「コロナ禍の学校生活では、さまざまな制約があり、部活や行事などが思うようにできず悔しかった」という声が複数あがる中、「どうすればみんななどの思い出が作れるか方法を考えたい」との発言もありました。参加議員にとっても、感染予防対策が叫ばれ、人と接触することが難しい中、子どもたちの生の声を聴くことができた貴重な機会となりました。

参加後のアンケートからは、「市議会議員のみなさんがメモを取りながら意見を聞いてくれてうれしかった」「次は人口増加について具体的に話

をしてみたい」「議員は今の政治をどう思っているのかなど、話し合ってみた」などびつりと記述があり、若い世代のしつかりとした意識や考え方に圧倒されました。

五回目となる二〇二二年度は、北広島のまちづくりについて市内中学生と意見交換会をしてみたいとの声が議員からあがり、「中学生との対話集会」という形で、対面での開催となりました。

校長会で開催概要について説明したのち、議員が分担し学校を訪問して直接参加依頼。市内の中学校から参加がありました。「北広島の好きなところ・魅力」「改善してほしいところ」の二つのテーマでグループトーク後、全グループが議場で発表しました。グループトークの中では学校の老朽化など設備面での違いや、それぞれの地区によつて公共交通や地域の課題に違いがあることを中学生同士が気づく瞬間があり、「うちの中学校よりも先に、〇〇中の校舎を直してあげてほしい」と、お金の使い方に優先順位をつける発言も飛び出し、議員にとつても有意義な時間となりました。傍聴席も教職員のみなさんでいっぱい埋まっていたのが印象的でした。将来、市議会議員を志す中高生が出てきてくれたらと期待しています。

二〇二三年の北広島市議会選挙の投票率は四六・八七％と、補欠選挙を除いて過去最低となりました。投票率が五〇％を切ったのは選管が把握している中では初めてだといえます。若い世代の投票率が低い状況も続いており、若い世代の意見聴取や議会を身近に感じてもらえる取り組みを今後も継続していかなければなりません。

へささき ゆりか